

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム サンヴェール大垣
(ユニット名)	ゆり
所在地 (県・市町村名)	岐阜県大垣市東町4丁目43-2
記入者名 (管理者)	西 陽子
記入日	平成20年 6月5日(木)

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設に入ったからできなくなってしまった…ではなく、生活の延長として仕事をしていただいたり、ありのままのケアを家庭的な雰囲気の中で提供させていただいている。		
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り、月1回のユニット会議などで話し合いを密にして、スタッフとも話し合いをする場を設けて理念の実行に取り組んでいる。		
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	2ヶ月に1回、隣の東町GH合同の運営推進会議を開催し情報や意見を交換したり、面会時に近状報告をさせていただいている。年に2回、家族会を開催し、スタッフ、ご家族様、地域の方との交流も行なっている。		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外出訓練等、個別に行なっている為、ご家族様に許可をとり自宅へ外出したり、友人の方にも立ち寄りいただける様に、家族会の参加の声掛けを行なっている。又、ケアの実践に向けてご家族様と相談し協力して頂けることにより地域との連携を図っている。		
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校の運動会、蛸祭り、幼稚園の七夕会に参加したり、東町GH、自治会とのつながりも保っている。年2回、家族会も開催しご家族様やボランティアにも声掛けし協力を得ている。「こども110番」の役を担っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ユニット会議にて個別に検討、見直しを図り、個別に合わせたケアの実践に取り組んでいる。又、得意分野のあるスタッフの協力も得て能力に合わせ、無理なく実践している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を、施設全体で報告し、ユニット会議にて改善点など見直し向上に励んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、自治会長、民生委員、地域包括支援センター、ご利用者、ご家族、施設長、事務長、管理者、スタッフが参加し開催している。書類上だけでなく、近状報告での出来事を写真にて添付し話し合いを有効活用している。施設見学もして頂いている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	GH協議会との連携があり、会議などに参加している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修、GH協議会に参加し、様々な状況から対応できるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加。安全委員会にて、虐待についての話し合い、マニュアル作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	施設相談員、NS、施設長、事務長、CWにて、ご家族様の話し合いの時間を設けている。	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	スタッフにて、個別に対して、その都度、お尋ねしている。又、ケアについても、3ヶ月に1回、ケアプランの見直しの際、ご家族様、ご本人、CWにて話し合いの場を設けている。	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	人事異動・管理者、本人でご家族様に、紹介させて頂いている。金銭管理・毎月の請求書と共に1ヶ月の金銭についての様子を使用している、していないに関わらず送らせて頂いている。又、面会時にて確認してもらい、サインを頂いている。面会時に近状報告をし、突然の緊急を要する件に関しては電話にて報告させて頂いている。	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情窓口として、第三者苦情専門機関を設置している。又、ユニットに直接、苦情があった場合、別紙にて書類を作成している。	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月1回のユニット会議で意見など聞いたりしている。又、休憩時、変わった様子があった時などに、スタッフより情報交換をしている。	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	面会時に、ご家族様と最近の近状報告をし、状況報告はできている。	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員間のコミュニケーションを密にし定期的に声掛けを行い離職を抑えている。異動時には、ご利用者様、ご家族様に十分説明し理解を得ている。ご利用者への説明に関しても最小限にとどめるように配慮させて頂いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や、各種委員会が行なう研修にも参加している。法人内にて外部研修もあり、段階に応じて研修参加が可能。受講後は、年間計画に計画されている、院内発表会にて研修報告を行う。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ協議会に加入しており、会議にも参加している。法人内の会議などにも意見交換している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	様子を見て声掛けをしている。休憩が、きちんとできるようにスタッフルームを設け、1時間休憩し切り替えて仕事ができるようしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人の能力によって、段階に応じてケアの実践に努めている。勤務表においても、新人ばかりにならないように作成している。又、プライベートで休みが必要な時は、十分に配慮しストレスを溜めないようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	物忘れが多くなってきていること、環境が変わる事、家族に見捨てられたのではないのか？環境の変化や、自分自身の老いに対する葛藤があり不安定な状態が多い為、ゆっくり本人の話しを聞き、軽減を図っている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	以前、どのような生活をして過ごされていたのかを参考に、現上の状態と照らし合わせ、ご家族様と意見交換している。面会時、又は状態変化があった場合などは、NS、相談員も加え様々な方向から意見を出し、提供させて頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一方的にみるのではなく、ご利用者、ご家族、管理者、ケアプラン担当者、NSにて、適切に対応、連携をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ユニット会議にて、個別に応じて話し合いをし、ご利用者、ご家族、管理者、ケアプラン担当者と共に希望を聞き、サービスの課題を設定し介護計画を作成している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護させていただいたり、介護させていただいたり・・・という関係。裁縫、常識、料理、恋愛相談など介護という枠にとらわれず、当たり前のお話をしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の要望も聞きながら、本人の意見と照らし合わせている。定期的な外出の呼びかけも行っており、協力をして頂いている。又、ご家族様からの要望で外出などの協力の要請があった場合は、可能な場合においては参加させて頂いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	施設に入ったからできなくなってしまった・・・ではなく、生活の延長として仕事をしていただいたり、ありのままのケアを家庭的な雰囲気の中で提供させていただいている。その上で、ご家族様から、昔の話を参考にしてケアの向上に取り組んでいる。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参り、自宅への帰省への呼びかけなど行っている。又、外出訓練などで、個別に合った外出を行なっている。(自宅、自宅周辺の神社、畑、お墓参り、図書館、本屋、喫茶店、パル園、遊園地、カラオケ、スーパーなど)		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者の、それぞれの事情によって、食事席の配置もしてある。だからといって、遠ざけたりするのではなく、お互いに生活している仲間として話し合い、理解を求めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	法人内の転出の場合・・・家族会や、行事などの声掛けを実施。 退所の場合・・・1周忌など、ご家族様に連絡をし、了解を得た場合は、訪問させて頂いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアを大切に、ユニット会議での話し合いや、日々の状態にて、1:1で外出に出掛ける機会を設けている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、生活暦を記入して頂き、ケアの参考にしている。ヒントを基に、計画し見直している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の少しの変化も見逃さず、カルテ記入、申し送りをしている。他利用者とのトラブル、面会の頻度、睡眠、食事量、排便、天気、歯痛、外出の頻度、ストレスの発散など)総合的に観察している。		
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の希望を基に、サービスの課題を設定し、それにあつた介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、ユニット会議にて、全スタッフとケアマネージャーにて話し合い見直しを図っている。状態変化があれば、その都度、ご利用者、ご家族様とも話し合い、見直しを図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少しの変化や、日々の行動パターンと違う場合、カルテ記載し申し送りし情報を共有し更に観察強化している。月1回ある、ユニット会にて、全スタッフで話し合いをし、ケアプランで見直しが必要な場合は、再度計画しケアの実践に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別の外出(お墓参り、自宅への外出、受診、など)ご利用者やご家族様の要望に合わせて対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	施設の夏祭り、小学校の七夕会、蛸祭りなど、小学校の生徒、先生方、ボランティアの方々に参加していただいている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人全体で、消防署の指導による訓練を年に2回行なっている。推進会議でも、自治会に災害時の協力を要請している。災害に備えて、水、食料、医薬品、衛生用品など備蓄もしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	月2回の運営推進会議を通して、ケアの様子、家族との交流、今後の予定、他施設との意見交換など行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力病院の他、ご家族様からの、かかりつけ医の希望受診があれば、支援を実地している。家族の付き添いで受診して頂いているが、施設のNSが、ご家族様から受診の結果報告を聞き、スタッフに申し送りをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門員の医師はいないが、受診などの場合、病院側にも理解していただけるように、説明、相談していただいている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	担当のNSが交代のもと、内服、受診、処置、状態観察など、健康面において、ご家族様と話し合いが常に可能な状態にある。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	NSと連携をもち、お見舞いに行き、医師やご家族様と話し合いをして、ご本人に負担がないようにしている。話し合いに応じて、スタッフに申し送りをしたり、食事、入浴などのケアの方向性を検討している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態の変化があった場合は、ご本人の気持ちや状態を優先して家族の意見、医師、NS、CW、各部署の意見を総合的に交えて検討している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	スタッフ「最後まで」と思う気持ちはあるが、限界があったり、ご本人にとっては逆に苦痛になることもケアを行なう上である為、法人の入所判定会の結果を受けご利用者、ご家族様と話し合いをし併設施設での転居に切り替えている。転居後も、転居先が、同施設にある為、スタッフ、ご利用者が遊びに行ったり、会いに来てくれたり、家族会など様々な行事に参加し継続して交流が行なわれている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご利用者、ご家族様の状態をみて、少しでも不安を取り除く為に、不安に思っていることなどを聞き、話し合いを行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人一人の尊厳、誇りを大切にしている。個人情報についても、破棄する場合は、シュレッダーにかける。又、ユニット内で、カルテを広げたままにしないようにしたり個人情報については注意している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個別に声掛けをして、何を行ないたいのか、行いたくないのかお尋ねし、スタッフの考えているケアも聞いてもらい、ご本人の意見も取り入れケアの実践に励んでいる。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の流れは、大体決まってはいるが、ご利用者の希望に合わせたケアを行なっている。急な外出にも対応できるように工夫している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎月、美容院があり、好きな時に予約できるようになっている。現在、行っている人はいないが、なじみの美容院に行く事も可能。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事に関しては、併設の為、施設で作ってもらっているが、外食に出掛けたり、ユニットにて、好きな物をご利用者と作って食べたりしている。院内の畑と一緒に収穫した野菜が食卓に並ぶこともある。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>病気で制限されていない限りは、個人的にお好きな物を、外出訓練などで購入して来たりしている。又、定期的に食べたい物をお尋ねし、外出訓練にて出掛けている。タバコ、お酒についても制限はない。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレに行く時間は決まっていないが、毎日、チェック表を基に排尿パターンを把握して、個別対応させて頂いている。状況に合わせ、ご本人に不快な思いをさせないように、意見も取り入れ、パンツで快適に生活して頂けるようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、週3回(昼間)の入浴であるが、個別に合わせて毎日、入浴実地している。入浴中は、個人に合わせて音楽をかけたり、静かに入浴したい方には、ゆっくり入浴して頂いている。入浴剤や保湿剤に関しても、個人に合った物を使用している。(外出訓練で購入したり、ご家族様に購入して来ていただいている。)		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	消灯時間はなく、個人の好きな時間に入眠して頂いている。個別に寝る時間を把握している。体温調節なども個別に対応しており、温度調節、布団調節の管理を行なっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫を行なっていた方には、裁縫の仕事を…教員の方には、市の広報を用意したり…手先が器用な方には、貼り絵を行なって頂いたり…それぞれ得意とする物が違う為、本人に相談して楽しみごとを支援させて頂いている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様との相談の上、承諾を頂いているご家族様のみ、個人でお金を管理させて頂いている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	神社、美術館、遊園地、お墓参り、スーパー、飲食店、バラ園、カラオケ、自宅、虫見学、畑の収穫、結婚式など、個別に合わせた支援を行い、気分転換や季節感を感じて頂いている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族様、ご本人と相談し、外出プランを実地している。(88歳、米寿のお祝いの付き添い、お見舞いなど)スタッフの結婚式に、ご利用者全員、スタッフ全員、ご家族様とサプライズにて参加なども行った。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を出す支援を行なっている。又、ハガキによる、ご家族様とのやり取りもしている。希望により、電話をかけることも可能。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族の方が、遠慮されないよう、面会時に声掛けを多くしたり、スタッフ感との、コミュニケーションも適度に図るようにしている。		
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全対策委員会にて、拘束の有無の報告をし拘束に関する情報交換を行なっている。その後、各事業所に持ち帰り、全スタッフが、拘束内容を理解し、拘束しないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないように、安全に気をつけたケアができるように、取り組んでいる。徘徊が強く、転倒の危険性がある場合には、施錠(鍵はしめない、扉のみ閉める)一時的に、対処する場合がある。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	毎日の生活の中で変化があった場合には、申し送り、カルテ記載、NSへの報告を徹底し観察している。又、観察強化し記録として全スタッフが把握できるようにしておく。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物(ハサミ、カッター)などは、引き出しにあるが、全部しまってしまうのではなく、見守りを強化することにより、危険予測し取り組んでいる。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の性格、特徴を個別に注意をはらい、観察している。又、事故等、起きた場合には、事故報告を記入して、全スタッフにて、今後事故を防ぐ為にも、話し合いを行なう。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、心肺蘇生法の研修を実施し、夜間の急変時対応についてマニュアルを作成し、迅速に対応できるようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	委員会、消防署を通して、避難訓練、(年2回)夜間想定(年1回)、消火器の使用方法を訓練している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	夜間、巡回時に急変が起こるかもしれない…万一の事を想定しご家族様に説明し理解を得ている。ご利用者の自立に向けた、ケアを行なっているが、その際に、起こりうるリスクも説明し、ご理解とご協力を頂いている。		
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフは普段の状況を把握しており、少しでも様子に変化のある場合は、バイタル測定しNSに報告する。カルテに記載し、全スタッフが理解できるように申し送りする。又、受診が必要な場合は、ご家族に報告。緊急性がないものに関しては、面会時等に報告する。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、スタッフが内容を把握できるようにしている。薬の変更があった場合は、ご利用者の様子観察を強化している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤をいきなり使用するのではなく、なるべく自然排便できるように、乳製品を使用したり、適度な運動を心がけたりしている。又、個別の状態に応じて、センナ茶の飲水量など調節している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご本人の希望に合わせ、口腔ケアを行なっている。定期的に、歯医者者の検診も受けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者一人一人、毎日の食事摂取量、水分摂取量を記録し、健康状況の変化の把握に努めている。又、定期的に、NSから助言などももらい指導してもらい、連携を図っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	委員会、NSからの呼びかけ、マニュアルあり。ユニット内では、出勤時、退勤時に手洗い、うがいを徹底し感染予防に取り組んでいる。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	給食委員会にて、マニュアル作成し、全職員で対策、予防に努めている。ふきん、三角コーナーは、毎日、ハイター消毒を実施。冷蔵庫内の点検や掃除も常時行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	知り合いの方から頂いた、布をボンボンにして、ご利用者と、のれんを作成して玄関に飾ったり、ソファのカバーなども作成したり、家庭的な雰囲気を作っている。ご家族に定期的に呼びかけも行き、作品に必要な物の協力を得ている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一緒に作成した手作りの、季節感ある作品を毎月展示したりしている。造花ではなく、季節に合った生花を飾っている。ユニット内には、仏壇や掛け軸を設置し、毎日お供えをし、お下がりを食べたり、お経を読んだり好きな時に、手を合わせ心のよりどころとなっている。又、メダカも飼っており、ご利用者が毎朝、餌を自主的に行なっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士の関係性を考慮した、席の配置、畳の空間、廊下にソファを増やし、一人で過ごしたり、談話ができるスペースを設置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、冷蔵庫、扇風機、時計、タンス、鏡台など昔使用していた、なじみの物を使用して頂いている。居室の入り口には、それぞれ、ご利用者が好みの布を選び、裁縫した、のれんが飾ってある。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度、湿度計をユニットに設置し、換気は十分に行なっている。匂いも換気をして、お香など用いて悪臭がないように細心の注意をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハード面に関しては、個別の身体の状態に応じて、自助具を使用している。(トイレ2箇所、バーを設置)		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	車イスの方が多く、ユニット内の時計の位置や、トイレの表札を低めに設置し認識できるようにしている。本人に混乱が生じた場合、その都度、スタッフと話し合い、自立した生活が送れるように支援させていただいている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに、花、家庭菜園など設置してある。自由に水やりをしたり、鑑賞できる。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・ありのままの、自然なケアをしています。